ブータン・ラオス・ミャンマーの学生達と記念植樹 (滋賀県守山市)

アジアの学生ら 住民と交流

農林業について学ぶ東南アジアの研究者や学 流を深めた。 生が3日、守山市内で記念植樹を行った。地元 の住民や子どもたちも作業に加わり、美顔で交



笑顔で苗木に土をかぶせる東南アジアの学生や 地元の子どもたち(守山市今夜町)

一行は、日本の環境保全や地域開発の取り組 みを学ぶためにブータンとラオス、ミャンマー の3カ国から派遣され、京都大東南アジア地域 研究研究所が受け入れている。 1日に来日し、 同市のほか南丹市などを視察し、京都大でワー クショップに参加した後、9日に帰国する。

この日は、守山市今浜町内の2カ所に分かれ て植樹作業に取り組み、新川河畔林と今浜緑地 帯にクリの木やヤブツバキなど苗木計16本を植 えた。地元から参加した連野小4年今江製奈さ ん(10)は「英語を勉強して、外国の人ともっと しゃべりたい」と話していた。

2日には、同市内で消防署や市環境センター も見学しており、ミャンマーの大学生ウェイ・ モン・テさん(20)は「自国はごみ問題にとて も苦しんでいる。日本の施設は素晴らしく、技 術や仕事ぶりにも驚いた」と話していた。

(堀田真由美)

2017年11月4日 京都新聞掲載